

3 見通しの結果

(1) 歳入

(単位：百万円)

区 分	H22 (決算見込)	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
地方税	1,346	1,344	1,329	1,328	1,326	1,298	1,298	1,298	1,298	1,298	1,298
地方譲与税	86	86	86	86	86	86	86	86	86	86	86
各種交付金	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177
地方交付税	3,250	3,065	2,904	2,911	2,946	2,841	2,707	2,487	2,408	2,255	2,150
国庫支出金・県支出金	861	756	687	687	687	687	687	687	687	687	687
分担金及び負担金	64	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
使用料・手数料	130	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105
繰入金	120	29	29	27	27	27	27	27	27	27	27
地方債	791	474	474	474	474	474	474	474	474	474	474
繰越金	351	40	120	181	281	420	516	608	668	709	765
その他	499	473	462	461	461	461	461	458	454	454	454
歳入合計	7,675	6,589	6,413	6,477	6,610	6,616	6,578	6,447	6,424	6,312	6,263

(2) 歳出

(単位：百万円)

区 分	H22 (決算見込)	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
人件費	1,162	1,160	1,161	1,161	1,147	1,152	1,152	1,152	1,152	1,152	1,152
物件費	1,212	1,178	1,108	1,108	1,108	1,108	1,108	1,108	1,108	1,108	1,108
扶助費	524	540	556	573	590	608	608	608	608	608	608
補助費等	989	989	989	989	989	989	989	989	989	989	989
投資的経費	579	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83
公債費	1,330	1,265	1,090	1,042	1,040	941	821	663	603	447	274
積立金	41	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
繰出金	1,436	886	877	872	865	851	841	808	804	792	772
その他	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362
歳出合計	7,635	6,469	6,232	6,196	6,190	6,100	5,970	5,779	5,715	5,547	5,354

(3) 収支(歳入 - 歳出)

(単位：百万円)

区 分	H22 (決算見込)	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
歳入合計(再掲)	7,675	6,589	6,413	6,477	6,610	6,616	6,578	6,447	6,424	6,312	6,263
歳出合計(再掲)	7,635	6,469	6,232	6,196	6,190	6,100	5,970	5,779	5,715	5,547	5,354
形式収支(-)	40	120	181	281	420	516	608	668	709	765	909
単年度収支(- 前年)	▲ 510	80	61	100	139	96	92	60	41	56	144

4 後期計画の投資的事業が財政運営に与える影響

総事業費（5 年・概算）

後期計画で計画している投資的事業のうち事業費（概算）が 500 万円以上の事業費を集計したものです。

（単位：百万円）

総事業費	財 源				地方債償還に係る一般財源所要額	町実質負担額
	国・県	地方債	その他	一般財源		
2,805	791	1,632	7	375	490	865

後期計画実施による影響額を加えた財政見通し

の事業実施による影響額（投資的経費、地方債等）を以下の条件により試算し、後期計画の事業実施を反映させた財政見通しを再度行っています。

（影響額試算条件）

【投資的経費】

- ・ の総事業費を後期計画期間である 5 年間で均等割。ただし、合併特例債充当事業は、財源となる地方債の借入期限が平成 26 年度までのため、4 年間で均等割。

【地方債及び公債費】

- ・ <合併特例債> 償還期間 15 年、据置 3 年、利率 2.0%
- ・ <過疎債> 償還期間 12 年、据置 3 年、利率 2.0%

【交付税】

- ・ 地方債償還に伴い、普通交付税の需要額に算入される額を償還額の 70% で試算。

【その他の特定財源】

- ・ 事業費と同様に 5 年（又は 4 年）で均等割。

（1）歳入

（単位：百万円）

区 分	H22 (決算見込)	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
地方税	1,346	1,344	1,329	1,328	1,326	1,298	1,298	1,298	1,298	1,298	1,298
地方譲与税	86	86	86	86	86	86	86	86	86	86	86
各種交付金	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177	177
地方交付税	3,250	3,065	2,908	2,920	2,960	2,883	2,776	2,580	2,524	2,388	2,283
国庫支出金・県支出金	861	930	861	861	861	782	687	687	687	687	687
分担金及び負担金	64	42	42	42	42	42	40	40	40	40	40
使用料・手数料	130	105	105	105	105	105	105	105	105	105	105
繰入金	120	29	29	27	27	27	27	27	27	27	27
地方債	791	819	819	819	819	726	474	474	474	474	474
繰越金	351	40	45	29	50	108	115	178	199	190	189
その他	499	473	462	461	461	461	461	458	454	454	454
歳入合計	7,675	7,110	6,863	6,855	6,914	6,695	6,246	6,110	6,071	5,926	5,820

（2）歳出

（単位：百万円）

区 分	H22 (決算見込)	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
人件費	1,162	1,160	1,161	1,161	1,147	1,152	1,152	1,152	1,152	1,152	1,152
物件費	1,212	1,178	1,108	1,108	1,108	1,108	1,108	1,108	1,108	1,108	1,108
扶助費	524	540	556	573	590	608	608	608	608	608	608
補助費等	989	989	989	989	989	989	989	989	989	989	989
投資的経費	579	679	679	679	679	503	83	83	83	83	83
公債費	1,330	1,265	1,096	1,055	1,060	1,001	919	795	769	637	464
積立金	41	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
繰出金	1,436	886	877	872	865	851	841	808	804	792	772
その他	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362	362
歳出合計	7,635	7,065	6,834	6,805	6,806	6,580	6,068	5,911	5,881	5,737	5,544

(3) 収支(歳入 - 歳出)

(単位: 百万円)

区 分	H22 (決算見込)	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
歳入合計(再掲)	7,675	7,110	6,863	6,855	6,914	6,695	6,246	6,110	6,071	5,926	5,820
歳出合計(再掲)	7,635	7,065	6,834	6,805	6,806	6,580	6,068	5,911	5,881	5,737	5,544
形式収支(-)	40	45	29	50	108	115	178	199	190	189	276
単年度収支(- 前年)	▲ 510	5	▲ 16	21	58	7	63	21	▲ 9	▲ 1	87

5 まとめ

後期計画期間中の財政収支は、町税の減収等が見込まれる中、公債費の減少によって、平成 24 年度を除き全ての年度で黒字決算となり、後期計画の着実な実施が見通せる結果となりました。

しかしながら一方で、収支見通しにはあまり表れていませんが、人口の減少や不安定な国の政治情勢は、今後の財政運営に大きな影響を与えかねない不安要素の一つとなっています。また、本町のような小規模な自治体では、現時点で予測できない新たな財政需要や大規模災害の発生等によっても、財政状況は大きく左右されます。

こうした中で、将来にわたり持続可能な財政基盤を確立するためには、引き続き公債費の縮減等による歳出の削減に加え、基金の積立等による将来負担の軽減に向けた取り組みを進めていく必要があります。